

こんしゅう しゅくふく  
今週のことば「祝福とのろい」

せいし ふくいんし  
《聖書》マタイによる福音書 25:31-46

しゅくふく せい  
「祝福とのろい」ということばは、聖

しゅ ちゅうしんてき し せう  
書の中心的な思想になっています。モー

ごしゅ りっぽう じゅうぶん さいご で  
セ五書においては律法の条文の最後に出

てきます。このことばによって、民に対

りっぽう したが  
して律法に従うようにといましめていま

す。このことばは、律法を守れない者は

かみ み す りっぽう まも もの  
神から見捨てられ、律法を守る者のみが

せい もの しゅちゅう りっぽうしゅご こん  
聖なる者となると主張する律法主義の根

きょ  
拠とされています。

しかし、レビ記26:40-45では、たとえ

ばつう かみ けいやく  
罰を受けることがあっても、神が契約を

やぶ か しんめい  
破ることはないと書かれています。申命

き かんぜん ねろ のこ  
記28:62でも、完全には滅ぼさず、残り

ものが か  
の者がいると書かれています。

きょう ちゅうしん さいご  
今日のたとえの中心は、最後のさばき

したが もの  
にあるのではなく、イエスに従う者はい

こうどう てん  
かに行動すべきかという点にあります。

しゅくふく みらい  
祝福とのろいのことばは、未来について

いま い  
のさばきのことばではなく、今どう生き

すべきかという勧めのことばなのです。

りっぽう まも おも ひと  
とうてい律法を守れないと思っている人

おも かみ  
でも、思いがけないうちに神のことばを

じっこう おし  
実行していることがあると教えているの

です。

かみ けつ けいやく やぶ い  
神が決して契約を破らないと言われる

とき また かなら のこ もの い  
時、又、必ず残りの者がいると言われる

とき ふくいん じぶん  
時、そこに福音があります。自分ではイ

したが せいかつ おも  
エスに従った生活をしていないと思って

かみ みと  
いても、神から認められるのです。しか

じぶん したが せいかつ  
し、自分ではイエスに従った生活をして

おも かみ みと  
いると思っても、神が認めないこと

もあるのです。

わたし い かた と  
私たちの生き方が問われているのです。

わたし い かた  
私たちはイエスの生き方にならうしかあ

わたし ふくいん  
りません。私たちは福音のためにとか、

あい りゆう じぶん  
愛のためにという理由をつけて、自分の

こうどう せいとうか けいこう  
行動を正当化しようという傾向がありま

きょう しめ  
す。しかし、今日のたとえで示されてい

し こうどう たい  
ることは、知らないでした行動に対して、

かみ ひょうか  
神の評価がなされるということです。

ねんかんさいご しゅじつ ねん たきの  
年間最後の主日A年（滝野）